

学 位 論 文 要 旨

氏 名 竹 口 幸 志

題 目 行動と精神活動の方向性に基づいた情報倫理教育の枠組みの構築

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

人間は、家庭、地域、国家など様々な集団と関係しており、共生する際は個人そのものや集団全体を認めながら互いに共通認識を持つことが求められている。情報環境の向上により現在では個人間のコミュニケーションが促進され、情報送受信の機会は日々増加している。これにより、例えば、他人への誹謗中傷、プライバシーの侵害、情報の隠ぺい・独占・ねつ造などの問題も生じている。情報社会における情報の発信やそのゆがみを制御することは困難になっており、社会全体で情報に対する倫理観を身に付けることが求められている。

学校教育において、教員は、児童・生徒が情報倫理についての理解が容易となるように教科書や事例を活用して授業を行っている。しかし、古くなった事例は人間生活の発達や情報環境の変化によって使えなくなる場合もある。また、教員にとっては児童・生徒の理解促進と興味を引く事例集に取り込まれ、事例の紹介のみに陥ったり児童・生徒に身に付けさせるべき考え方を扱うことができなくなったりという危険性に陥ることもある。そのため、児童・生徒が社会に出て活躍する20年後や30年後にも精神的に豊かに生きることができるよう、事例紹介のみではなく情報倫理としての考え方も教える必要がある。

本研究では、現在行われている情報モラル教育の現状を概観し、高等学校普通教科情報教科書を対象として記載内容の分析を行った。この結果を客観的に捉え直すために、倫理・モラル・道徳の関連性を考察した。さらに、倫理の側面と道徳の側面を組み合わせ、情報倫理教育の枠組みを構築した。この枠組みを情報倫理教育コンテンツに適用し、情報倫理教育の実践がどのような観点から行われているか検証した。

本論文の構成は以下の通りとした。まず、高等学校の教科情報の教科書分析を行い、現状の情報モラル教育について明らかにした。そして、倫理、道徳、モラルの概念について考察を行い、統一的な視点からの情報倫理教育の枠組みを構築した。さらに、構築した情報倫理教育の枠組みを情報倫理教育コンテンツの評価にどのように利用できるかの検証を行った。

第2章では、現在学校で行われている情報モラル教育ではどのような内容が扱われているのかを分析した。小学校には情報モラル教育に関する教科書はなく、中学校では情報技術の視点からの情報教育があるが、情報モラルの扱いは少ない。高等学校では教科情報が必修となっており、内容も充実している。そこで、まず高等学校の教科情報の教科書を対象に、情報モラル教育実践の現状分析を行った。その結果、各教科書会社によって情報モラル内容の扱い方にばらつきがあるものの、すべての教科書で情報モラルの内容が取り扱われていることが確認された。ただ、内容の扱いが不均一であるため、統一的な視点で情報モラル教育を捉えることの必要性が明らかとなった。

第3章では、情報モラルという言葉に着目し、モラル、倫理、道德の概念について考察し、情報モラル教育を捉える統一的な視点について考察した。この結果、道德の観点から人間の行動方向性、倫理の観点から人間の精神活動方向性を得た。これらの行動方向性と精神活動方向性を組み合わせて、情報倫理教育の枠組みを構築した。

第4章では、情報倫理教育の実践がどのような観点から行われているか検証するために、学校教育で一般的に利用されるWebコンテンツと教科書を用いて情報倫理教育コンテンツの特徴分析を行った。結果として、広く教員に利用されているWebコンテンツの一例では、一場面を一活動に設定することにより学習者の理解を容易にしており、単純化した基本要素に着目してコンテンツが作られていることが分かった。高等学校普通教科情報の教科書においては、情報環境が成熟した社会の中で学習者は身の回りにある情報を同時に扱うことに慣れているため、将来を見通した複合化事例を用いたコンテンツとして構成されていることが分かった。このように、情報倫理教育の枠組みを利用することにより、情報倫理教育コンテンツ構築の考え方を調べるのが可能となった。さらに、人間の行動と精神活動の二つの方向性を融合した観点からの情報倫理教育の枠組みを利用すると、情報倫理教育コンテンツの利用順序を示唆できる方法としての利用可能性を証明できた。

第5章では、本研究で構築した情報倫理教育の枠組みの構築結果と特徴分析の結果を整理した。本研究では人間の行動の方向性と人間の精神活動の方向性の視点から情報倫理について考察し、新しい情報倫理教育の枠組みを構築した。また、この枠組みを用いた情報倫理教育コンテンツの分析により、情報倫理教育実践の可能性を検討した。さらに、教員の授業実践の支援策として、授業時に利用するWebコンテンツの利用順序性を示唆できる方策についても、今後の研究の展開として考察した。